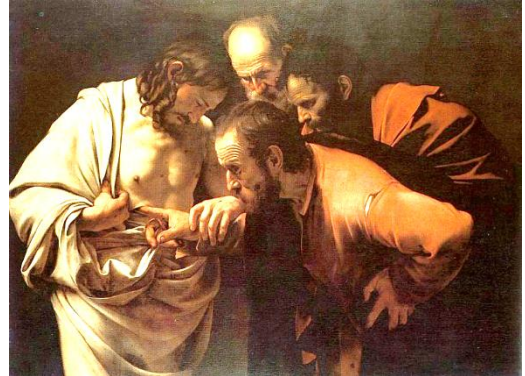


「科学絶対主義の中で」(2026. 4. 19)

イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」 <ヨハネ>20:29

ヨハネは福音書に貴重な出来事を記しています。トマスのことです。復活日から8日後の夜、復活されたイエス様は再び現れ、すぐにトマスに問われます。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい」。手の傷に指を当てたら、わき腹の傷に手を入れたら、痛むでしょう。しかし、あなたが信じるためだったら触れていい、と言われたのです。疑いを大きな心で包まれたトマスは感極まり、「わたしの主、わたしの神よ」と告白したのです。



この後イエス様はトマスに上掲のみ言葉を言われます。見ないのに信じる・・・つまり聞いて信じる人は幸いだ、と。この御言葉は、トマスだけではなく、私たちにも語られています。復活を直接目撃しなくても、弟子たちの証言を聞いて信じる者には、見て信じる以上の祝福がある、そういう約束です。実際ヨハネがこの福音書を書いている時代、見ないで信じた者、聞いて信じた人たちがほとんどだったでしょう。彼らはこの御言葉を握りしめ、迫害の嵐の中を生き抜いたのです。

現代においても迫害があります。例えば科学絶対主義です。復活など聖書の奇跡を信じる人を、おとぎ話を信じる子どものように見做すのです。また、神を考えなくても宇宙や自然、人間の存在を説明できると豪語します。このような考えが時代精神になっています。確かに科学は私たちの生活を豊かにしていますが、だからと言ってイエス様の復活を否定できません。逆に多くの証拠は復活を指し示しています。また、宇宙それ自体が自らを創造したなどと主張するのは、観察と実験を重んじる科学の範疇を逸脱した、無神論者の信念です。

私たちの信仰は妄想ではありません。数々の証拠に裏打ちされた信仰です。「信じない者ではなく信じる者になりなさい」このように招くイエス様は真実なお方です。ハイ、と答え、胸を張って日々歩みたいものです。